

『ソーラープレーン現状報告 12』

既に一年近く前の事になりますが、佐渡空港での試験飛行のレポートです。

スポイレロン、プロペラピッチコンと少しずつ動力飛行へ向けて機体が仕上がってきました。いよいよ自力離陸と旋回飛行に向けての操縦性の試験です。動力が付いて3舵操縦になって、だいぶ飛行機らしくなってきました。



さてこれまで試験飛行は主に『ふくしまスカイパーク』にお世話になってきましたが、旋回飛行を見据えて更に滑走路の両サイドが広い飛行場が必要です。もちろん広い空港はたくさんありますが、定期便の旅客機が離発着するような空港はとてども使えません。もしSP-1が滑走路上で立ち往生したり、粉々に破損したら多大な迷惑を掛けてしまいます。

すると候補はふたつに絞られます。ひとつは八谷氏のメーヴェが動力飛行試験に使っている「たきかわスカイパーク」。もうひとつは「新潟県営佐渡空港」です。佐渡空港は旅客機も離発着できる本格的な空港ですが、現在定期便がありません。しかも何よりパイロットの横山が「宮大工」として佐渡に住んでいます。移動の効率を考えると佐渡空港に軍配が上がります。新潟県知事(当時)に掛け合ったところ、快く使用を許可して頂きました。

9月18日から佐渡へ3日間遠征を敢行、SP-1が初めて海を渡ります。着いてみればさすがに「空港」です。滑走路が本当に立派で、空港職員の方は本当に親切です。ハンガーが無いので毎日機体を分解収納しなくてはならないのが辛かったですが、「ハンガー建てるならどうぞ」、との事。試験飛行は終始横風の中でしたが、スポイレロンがラダーと連携して何とか直進を維持、改修設計が正しかったことが確認できました。離陸滑走時の推力も福島での試験通り発生している様です。SP-1が自力で離陸し水平飛行を維持するのを見るのは爽快です。ひとつ肩の荷が下りた感がしました。



喜びも束の間、10月1日は陸自立川駐屯地の防災航空祭でデモフライトの約束がありました。大急ぎでフェリーに積み込み東京へ帰らねばなりません。自衛隊基地でのフライトも初体験でしたがなんだかあつという間のフライトでした。イベントのデモフライトにはイマイチ向かないSP-1です。スタッフにとっては飛行性能の再確認ができて小さくガッツポーズの基地祭でした。



再度佐渡に渡ったのは翌10月5日。バッテリーをより高性能な通称「タイガー」に積み替え、仕上げの試験です。やはり横風ですがパイロットは完全に機体を把握した様子。スリップと偏流を巧みに使いこなし、全く不安がありません。SP-1が一人前の飛行機になった感慨ひとしおです。ただ、佐渡空港は滑走路両サイドの立木が高く、場内での旋回飛行に使えない事は明らかでした。しかしひとまず「自力離陸」と「水平巡行」が3m/sec程度の横風下で安定的に可能である事が確認できたことで、先の希望が見えてきました。

「やはり北海道か…」

佐渡から撤収するフェリーの中で、皆の脳裏には既に同じ思いが占めていたわけです。さあ、忙しくなるぞ。

バッテリーの交換、
機体重心確認、
プロペラピッチ確認、
フィルムの剥離チェック、
ジンギスカン、
味噌ラーメン、
スープカレー、
焼きトウモロコシ…

To Do List は次々に埋まっていったのです。



四戸 哲

2017/09/21